

## 大東・学びの土曜塾

一関市大東町の摺沢、興田、曾慶の3市民センターによる「大東地域・学びの土曜塾(夏休み編)」は29日、町内で行われた。大東、大原、興田の3小学校から1〜4年生14人が参加。仙台藩初の洋式高炉があった同町鳥海字市ノ通の文久山高炉跡を訪問するなど、郷土の製鉄産業の歴史について関心を高めた。

文久山高炉に関する企画展を開催している同町摺沢の大東図書館で、芦東山記念館業務推進員の小味浩之さんが世界遺産や、大東と鉄の関連について講話。江戸時代の仙台藩では「焔屋」と呼ばれる製鉄所がたくさんあったことや、芦東山の義兄の子孫に当たる芦文十郎が同藩でいち早く欧州の製鉄技術を用い、文久山高炉を造ったことなどを紹介した。

その後、バスで文久山

# 地元高炉跡に関心

高炉跡と同町中川字根岸の焔屋跡付近を訪れた。文久山高炉跡で小味さんは、同高炉が山奥の地に

あったことについて「鉄の材料の『餅鉄(鉄鉱石のこと)』の産地に近かったことや、送風に用いる水車を動かす川が近く、燃料となる木炭の用材がたくさんあった」と解説した。

参加児童は説明に耳を傾け興味を深めた様子で、伊東和真君(興田4年)は「いろいろ勉強になった。この辺りに鉄を作る場所があったこと、びっくりした」と語っていた。



市ノ通地内の文久山高炉跡を訪れ、大東の製鉄産業の歴史について学んだ参加児童